

安全性「応急点検チェックリスト」 ～地震後の建物構造体の安全性を迅速に確認します～

**専門家でも
も！**

■南海トラフの地震や首都直下地震などの大規模地震の発生が懸念されています

- ・被災した建物の安全性を判断できる**専門家の数が不足**することが想定されています
- ・ライフラインや交通機関の停止により、**専門家が即座に駆けつけることは不可能**と想定されています

■「東京都」内閣府は帰宅困難者の集中緩和策として、発災後72時間までを目途に建物内に留まる施策を推奨しています。

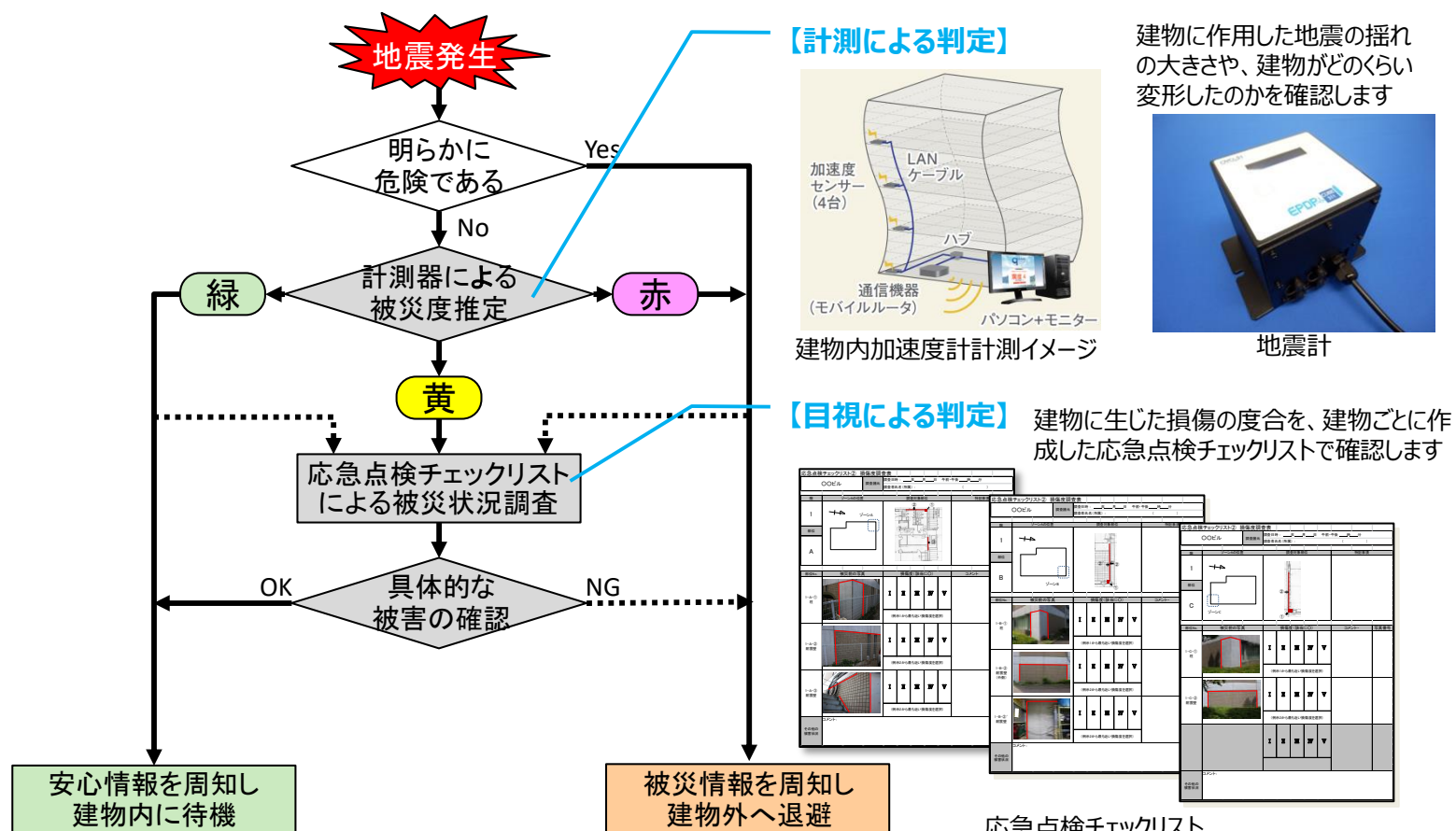
■事業継続や被災後の早期復旧の観点からも、建物状態の迅速な把握が重要です。

建物に対する専門的な知識を持たない**建物管理者や災害対応担当者**が
被災した建物の**安全性を早急に判断**することが必要になります

建物安全性「応急点検チェックリスト」

非専門家による地震発生直後の応急的な建物の安全性確認を可能にします

応急点検チェックリストによる安全性確認の流れ



応急点検チェックリストの特徴

応急点検チェックリスト② 損傷度調査表						
〇〇ビル		調査日時： 年 月 日 午前・午後 時 分				
調査諸元		調査者氏名(所属)： ()				
階	ゾーンAの位置	調査対象部位			特記事項	
1	ゾーンA					
部位	A					
部位No.	被災前の写真	損傷度(該当に○)				
1-A-① 柱		I	II	III	IV	V
(例示1から最も近い損傷度を選択)						
1-A-② 耐震壁		I	II	III	IV	V
(例示2から最も近い損傷度を選択)						

■ 特に重要な点検ポイントを専門家が事前に絞り込み

■ 点検ポイントの損傷度判定は、事例を参照で専門家でなくともOK

損傷度の例示					
損傷度 I	損傷度 II	損傷度 III	損傷度 IV	損傷度 V	
					例示1 柱
近寄らないと見えにくい程度のひび割れ(幅約0.2mm以下)が生じている。	肉眼ではっきり見える程度のひび割れ(幅約0.2～1mm)が生じているが、コンクリートの剥落は生じていない。	比較的大きなひび割れ(幅約1～2mm)が生じているが、コンクリートの剥落はごくわずかで、鉄筋は露出していない。	大きなひび割れ(幅2mmを超える)が多数生じ、コンクリートの剥落も著しい。鉄筋が露出しているが、鉄筋の変形は見られない。	鉄筋が大きく露出しており、鉄筋の曲り・破断が見られる。内部のコンクリートも剥れ落ち、柱の高さ方向の変形が生じている。	
					例示2 耐震壁
近寄らないと見えにくい程度のひび割れ(幅約0.2mm以下)が生じている。	肉眼ではっきり見える程度のひび割れ(幅約0.2～1mm)が生じているが、コンクリートの剥落は生じていない。	比較的大きなひび割れ(幅約1～2mm)が生じているが、コンクリートの剥落はごくわずかで、鉄筋は露出していない。	大きなひび割れ(幅2mmを超える)が多数生じ、コンクリートの剥落も著しい。鉄筋が露出しているが、鉄筋の変形は見られない。	鉄筋が大きく露出しており、鉄筋の曲り・破断が見られる。内部のコンクリートも剥れ落ち、壁の向こうが透けて見える。	

サービス内容

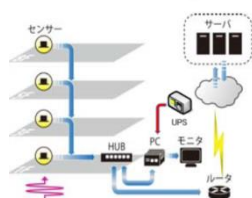
■ 建物の構造的な特性や現場の状況を踏まえたシステムの構築

- ・計測器設置のための調査・検討、計測器の実装
- ・損傷度合を確認する箇所を抽出し、応急点検チェックリストを作成

■ システム運用マニュアルの作成および運用方法の説明・訓練



オプション【q-NAVI GATOR[®]とのコラボ】



構造特性に応じて複数階に設置したセンサーにより計測・判定を行うq-NAVI GATOR[®]との組み合わせが可能です。【本製品は (株)小堀鐸二研究所が提供します】